（大正十四年十二月一日第三種郵便物認可）

平新報

發行日毎月三回五ノ日發行
福島縣磐城石印刷人
發行所 福島縣平町二丁目二番地 平新報社
山野邊庄吉
廣告料五號十二字詰一行同五十錢 期所指定倍增
一部定價金十錢送料五厘

御大禮諸儀式時間割大体決定

今秋行はせらる御大禮諸儀式の時間割は各係官にて考究中の處大体左の通り決定せるものゝ如くである

▲賢所大前の儀　十一月十日午前八時半より同十一時半まで
▲紫宸殿の儀　同日午後一時より四時まで
▲總理大臣の萬歲を唱へる時刻　同日午後三時頃より十五分頃までの間
▲賢所御神樂の儀　同日午後四時頃より翌十一日午前零時四十分頃まで
▲大嘗祭の儀　十四日午後四時三十分頃より翌十五日午前六時頃まで
一、悠紀殿供御の儀　十四日午後六時より同十一時頃まで
一、主基殿供御の儀　十五日午前一時より同六時頃まで
▲大嘗祭後第一日御饗宴　十六日正午より二時まで
▲同第二日御饗宴の儀　十七日午後八時より八時まで
▲同夜宴　同日午後八時半より十二時まで

磐城出身新進（十六）

最近上級學校入學者

本四月磐中同窓生にして上級學校へ入學を許可された者左の如くである

×　×

◆本縣師範二部　廿六回卒佐神正康　廿六回鈴木義忠　藤田力　渡邊清之助　小松四年在學生木幡英夫　廿七回卒永井昌次　田◇永戸高等學校　廿八回中隆　仲重三　澤石太郎　鈴木三野喜一　同鈴木直　同逢來郎　志賀昇　江尻浩　野木信男　廿七回高木藤太郎　阜　廿八回卒片寄正義　西◇千葉醫科大學藥學專門部　廿八回馬上武義　山榮　渡邊彌平　木田芳重

◇弘前高等學校　廿八回宇佐神正康　廿六回鈴木義忠

◇宇都宮高等農林　廿八回草野光司　◇米澤高工　廿六回渡邊清

◇仙臺高等工業　廿八回卒之助

◇靜岡高等學校　廿六回太大森輝（土木）淺井義治（土木）櫛田幸三郎　同　同助川一郎

◇東京市教員養成所　廿七回佐々木直　廿六回高木隆四郎

◇青山師範二部　廿八回安永安茂　廿八回中田肇

◇東京外國語學校佛語科　廿八回馬上武義

◇東京高等師範學校地歷部　廿七回大和田道隆

◇東京高等學校　廿八回中村榮

◇東京高等師範學校　廿七回大和田道隆

◇法政大學豫科　四年終了鳥海榮一

◇新潟高等學校　廿七回齋藤貞雄

◇第一高等學校　廿八回鈴木竹次郎

右に觀るに桐谷邦男君は桐谷文平氏の息、鈴木信道君は磐崎村鈴木道治氏の息、中野喜一君は平町二丁目中野庄吉氏の息、鈴木新右工門君は平町二丁目鈴木邦三郎氏の息である。

知人消息

◎山野邊久利氏　岩手縣下閉伊税務署に勤務たりし磐中二八會友たる氏は今回職を辭して歸省し平町の實家に定住する事となつたので會友たる諸橋元三郎、關內正一、吉田義男の諸氏は去る一日夜越の家に於て懇親會を催した。

◎木村謙吉氏　過般の小學校長移動に際し高久より庭塚へ

◎芰花新作氏　同上磐崎第一より古關へ

◎江尻融氏　同上上遠野より磐崎第一へ

◎長谷川親氏　同上退職

事業と人物（十五）

歸省せる永山勇吉氏

酩酒「由良之助」小賣部の

嶄新なる營業振り

宗瓶と銘酒瓶詰と交換を以つて近來好評を博しつゝある平町久保町酒釀造業永山和平氏は小賣販賣部を新設した！それが擔當者は誰あらぶ、和平氏長男勇吉氏である、氏は過般來議選擧を新設しよ〳〵街頭に立つて活躍してゐるが好評喧當時突如として東京より歸省して居つた選擧の事でも々として近き將來には必ず來たのであらうと推して居る。

米國自動車王フォードの所謂科學的經營法に依つて直接生産者より消費者へのモットーを掲げて自ら生産せる銘酒『由良之助』小賣部を新設しよ〳〵街頭に立つて活躍してゐるが好評喧當時突如として東京より歸省して居つた選擧の事でも々として近き將來には必ず來たのであらうと推して居る。

夫婦して內鮮融和に先づ女學校を設立

但し朝鮮人の事

朴驥緒氏はまだ三十二歳で立つべきであるといふ考の血氣盛りの朝鮮人で一たへに歸着しました。これは偏に獨立運動の急先鋒とし氏が世界の歷史と政治とを研究して得た理論でしたが、その後釋然悟るところがあつて、結局黃白の民族として、內鮮融和の必要を痛感し、朝鮮全道に普及したい民族を思ふ熱誠とは、夫人こまで眞劍に考へてゐるで洋の民族は日本を盟主としといふ精神から米國宣教師の經營してゐた忠淸北道の聖成女學校を回收し自ら校長となり、今や全財産と全精力をこの主義のために投じ盡してゐるのです。

妻女の李貞淑さんは當初朴氏を變節者として激しいづ、融合の實を擧げるために、せめて服裝からでも互に少み寄られるやうにと頻ほりなく守り導いゐてます百人の女生徒をよくどゞこそして內鮮の婦人同志がまに服裝研究をしてゐるさうです。思へば內地の幾人の婦人が內鮮融和の必要をこまで眞劍に考へてゐるでせう？　「朝鮮より」

今では夫君がこの運動のため上京してゐる留守中を夫君の眞劍な態度と、東洋民族を思ふ熱誠とは、夫人の理解するところとなつて

仕の一大義務をせしめてこの權利を與へぬは公平と言ふを得ぬ、勿論現役軍人が權謀術策陰謀等をやる事は結構な事でないが選擧運動否な自己の權利を行使する位は與へても差し支いあるまい。

▼選擧區について大、中、小と議論がある樣だが吾人は大選擧區がよろしいと思ふ、棄權者のうちには『自己選擧區內立候補者中に理想者がないといふ人もあつたから』と開いて居る、かくの如き棄權者は大選擧區にならばマサか一人位の理想の候補者がある筈、引いて買收マッタ賣票？賣權もなくなる筈である。

外務員大募集

高尙優美の新職業、收入確實、永久事業生活の安定絕對証保

男女年齡を不問無經驗にてもよし有給

外步合希望者は午後六時より午後八時迄に來談あれ

平町二丁目

佐野屋旅館內

川

吉田氏辭任後

磐崎村長

何人が選はれるか

磐城村々長吉田明德氏は今回辭任をする事となり後任者未定であるが決定までには相當の日月を要するものであらふと言はれて居る。

玉川村岡小名

區長問題解決

玉川村大字岡小名にては區長引斷ぎにつき大字會を解散迄して新舊兩區長派の爭鬪を續けて居つたが永井村長、長澤、駒木根兩村議、小野晋平氏等の協定によつて今回解決し舊區長丹野寅吉氏は新區長丹野清五郎氏に事務の引斷ぎをなしたと

普選！

より良く

▼普選となつて滿二十五才以上の男子はその同管區居住に依つて何人も權利を認められた、然し現役軍人には與へてない樣である、戰時其他に國家奉

春衣新柄持製品
宣傳賣出し
お花見手拭　別染　壹本　八錢
お花見足袋　黑　朱子　金三十錢　白キャラコ　金二十錢
品がよい……値が安い　はき心よい……
●錦紗小紋　●矢代製御召　●特製羽二重帶側　セル男女羽織地
●モスリン着尺
伊勢崎模樣銘仙
昭和式洋傘婦人持
特價二圓也
見てよし　着てよし　爲によし
三拍子揃つた
おつとめ品提供
本年の新柄潤澤に取揃へました
●何卒御覽被下樣願ひます
新館ニハ京人形陳列あります
◆四月十五日ヨリ七日間
平町三丁目
三井吳服店
電話三七五一八番

◎お花見は松ケ岡公園!!
櫻も笑ひ初め『ボンボリ』や提灯も例年の通り十四日より美事飾られまして皆樣の御來遊をお待ちして居ります
◎お花見は是非!!平の公園に
春の御仕度は……
是非丸龜に！
◎春にフサワシイ御仕度には
三拍子揃つた
優美・丈夫・經濟な！
丸龜のセールを御使ひ召せ
店員募集　十三才より十六才まで　五名
御近所御知り合に希望の方がありましたら御世話下さい
明治生命保險株式會社
第一徵兵保險株式會社
平代理店
中野吳服店
平町三丁目●電話六十六番

磐城湯本
温泉旅館
松柏館
電話五番

本町
森合
齒科醫院
齋合芳男

理化學研究所製
吸入用酸素・酸素吸入器
優良ナル理研ノ酸素ノ御用意ヲ
平町四丁目
關內藥舖
藥劑師　關內榮助
電話四〇番

可愛い、お子樣の通學用
防水ゴム引マントの特賣
男子用　一、五〇ヨリ　二、六〇マデ
女子用　一、六〇ヨリ　二、七〇マデ
平貳丁目　なかや吳服店　電二〇三

磐城セメント代理店
西村屋藥舖
平町二丁目　電話四三番

日本石油株式會社特約店
營業種目
內外機械油
發動機用油
色油類各種
度量衡器
カーバイト
コールタール
石油乳劑
平町二丁目
清閑內油店
關內正一
電話四十六番
郡山市驛前
關內油店
郡山支店開設
電話三二八番
支店茨城縣多賀郡關本驛前油槽所
電話平潟三十七番

不思議な滋強靈液
養命酒
本酒を用ひて適切に靈能の分る人々養命酒は酒にして酒に非ず藥餌用として御婦人にも用ひ易く强力なる榮養素は惡疫を豫防し萬病を擊退する眞に健康の好伴侶なり榮養を貴ぶ人は勿論殊に
結核素質者○胃腸病○神經衰弱○精力減退○貧血性○不眠症○病後衰弱○婦人病ヒステリー○勉强又は激務に疲れ易き人○健康者朝夕の一杯元氣旺盛○其他慢性諸病に惱み醫藥に効なき方は論より證據先づ一瓶を試み其眞價を知り御愛飲あらん事を御薦めいたします
▼大瓶　五八〇瓦入　金貳圓
▲中瓶　四〇〇瓦入　金壹圓五拾錢
▲四季の御進物用又は病家の御見舞品として最も好適で御座います▼
賣元　信州　天龍館東京支店
平町五丁目
代理店　山野邊藥局
藥劑師　山野邊東次郎
◎養蚕用寒暖計
◎農藝用消毒藥各種

イナラサク　イナケヤ　イナビサ
石綿セメント製
朝日煙突
耐水　耐火　美麗　廉價
平町五丁目
和洋銅鐵金物
釜屋商店
電話九番　三九番

◎民衆本位
登記の實際
附家庭實用法律心得
民衆法令普及會發行
四六版上製上質六百二十頁
特價金貳圓參拾錢
福澤先生著
◎修業立志編
四六版二百七十頁定價金壹圓也
◎福翁自傳
四六版五百五十頁　定價金壹圓七十錢
平町二丁目
清光堂書店
電話一三一番
振替口座東京五三八八
御注文の際は迅速に御屆け致します

櫻ハ松ケ岡
良クテ安イヒナ人形ハ
平町四丁目（魚市場向）
スガノヤ提灯店　電七一二

平の櫻花

雪洞、提灯で美化された不夜城の松ケ岡公園

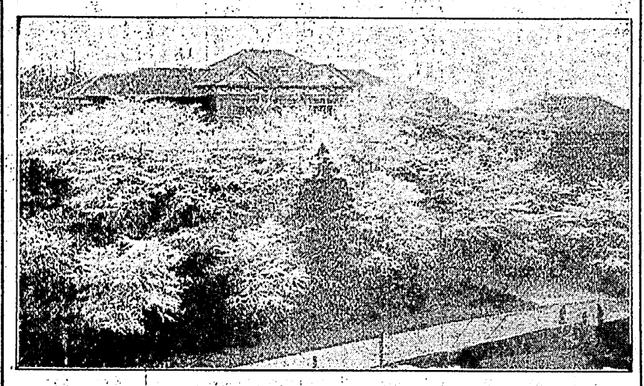
史上山櫻を以つて名ある勿眺め又趣きありとせられて來の關を同郡内に持つ平の櫻は今や全國的となつた、箱庭的全園これ櫻樹！市街南部を西東する新川邊りの櫻は一寸他に觀られぬ所がある、加ひて夜櫻は又一入で夜の公園を美化するには何と申しても電燈である、この櫻花廣告燈は大正十二年縣下消防組頭大會の平に開催されし當時、時の郡山電氣平支店長武田精一氏の奉仕的努力により引き續き點燈され、昨年は平消防組の主催であつたが本年東電中營業所その衝に當り財界不況にも拘はらず例年の通り雪洞四百三十、提灯八百六十一合せて千二百九十一で公園内の公衆電話架設や準備全くなり十四日夜來より廣告燈の點火となり其他中役場の櫻花季、夏期の點燈が松ケ岡公園全山を不夜城化しめて居る列車よりの二、松岡より

平花見唄

一、來ても觀やんせ磐城の平
櫻咲きます松ケ岡ヨ
ショコホイ　ショコホイ　ノ
ホイノ松ホイ〳〵

二、關の五本松式
新川見れは深の月夜に二人連れヨ
三、夜の新川邊を行けば東榮ゆる五色街
四、鎌田町より車を走せば三線の色めく新田街ヨ
五、平良い所昔も今も尼子夜の月照り冴ゆるヨ
◎鴨綠江節
平町驛を降りれば新田街少し歩めばアラ南町
新川邊をヨ—過ぎ行けば五色のマタ花咲く鎌田町
チヨイ〳〵チヨナ

◆春＝花＝櫻◆



平商業學校正門

話耳目

◆第三小學校敷地が未だ決定せぬ樣であるが要は兒童本位であつて土地の發展とか、營利的であつてはならぬ、又何々期成會等と騒ぐ質のものにあらずである、と教育に理解ある佐々木町議の曰くだ

◆酒なくして何の櫻かな、女なくして何の櫻かな、要は男ばかり觀る櫻にあらず、金なくして何の櫻かな、いや心なくして何の櫻かなじやそうだ、金ありとも心なくしては、人造の花はいつでも見れるが……自然の美は心なくしては見られぬテ。

◆僧侶の强姦事件、教員の姦通騒ぎ吾人は聞くべかうざるを聞く、宗教家なるが故に、教育者なるが故に、何々をしてならぬとは言はぬが社會の師表に在るものは今少し自重して欲しいものだ。

◆來年の今頃は町村會議員の改選である、市制準備を控えて平町よりは何誰が立候補するか、今から下馬評とり〳〵氣の早いものだ、要は已れを知つて出る事だ、市町村制でも考究して置く事である、そろ〳〵新しい人の顔振れが多い樣であるから變つた人が出る事であらふが……現町議三十氏過去を顧みて何をなしたか、向ふ一年間何をなしたんとするか十四年四月立候補當時の町政に對する意氣と抱負を借問したい徒らに町吏の立案に盲從して戸數、營業割の査定？に利已的に沒頭しては居なかつたか其ために町議になりはせなかつたか兎に角任期向ふ一ヶ年である、町百年の計を樹てて、先見の町政刷新をやつて欲しいものである。

會の諸々

夏井の花まつり講演會

夏井村矢之目如來寺華嚴會主催にて去る七日午後七時より同村下大越安祥院に於て釋尊降誕花まつり記念講演會を左の如く開催せりと

司會者　間野　尊如

第一部灌佛式

第二部講演

▲開會の辭　鈴木　積善
▲講演　久野　顯榮
▲講演　宍戸　正勝
▲講演　桐原生英純
▲閉會の辭　阿部　崇順

尚ほ八日午前八時より如來寺に於て少年少女花まつり大會あり

司會者　久野　顯榮

▼灌佛式（献香、献花、祝詞文）
▼花まつり唱歌　一同
▼おもしろいお話　間野　尊如
▼おもしろいお話　阿部　崇順
▼おもしろいお話　鈴木　積善

酒井清氏小頭昇任

平消防組の阿部政右衛門氏小頭辭任につき酒井清氏昇任せりと。

阿部氏の慰勞

十三日午後七時より料亭大和家にて有志相計り阿部政右衛門氏の慰勞會ありし由出席者多數なりしと。

能樂狂言會

去る十三日午後四時より平劇場に於て平觀世會主催の下に左の番組にて能樂狂言會があつたが平では珍らしい事同好の人の參集多く意義あるものであつた。

▼船渡聟『船頭』加茂秋里
『姑』多々良外茂三『聟』内川香堂
▼名取川『僧』伊賀良志『何某』和田洋
◎素謠（觀世流）
▼熊野、赤津庄兵衛、坂本隆藏、松井清水、郡司二郎、
▼桑山伏『山伏』神保省三『兄』伊賀良志『弟』多々良外茂三
▼三人片輪『啞』多々良外茂三『盲』内川香堂『辟足』神保省三『主人』加茂秋里
◎素謠（喜多流）
白土喜伯、佐藤芳松
▼蟬　丸　鈴木民治
▼靭猿『大名』加茂秋里『太郎冠者』神保省三『猿曳』伊賀良志『猿』多々良勇

土木業大會

本十五日縣下土木業者第二十回大會を平町公會堂に於て開催後谷口にて懇親會頗る盛會であつた。

十三日會講演

十三日會は去る十三日平銀樓上に於て吉田利吉氏の「企業組織に對する一考察」と題する講演があつた。

南米事情講演

力行會主催

石城郡衙公會堂に於て日本力行會平支部主催の下に本部より海外事情の研究家森喜代一先生の來平を乞ひ南米事情研究講演會開催する由。

民政黨政談會

石城民政黨主催倒閥政談大演說會が去る十三日午後一時より平町聚樂館に於て催された、辯士は增田義一、戸澤民十郎、比佐昌平氏其他にして開會前既に滿員。

大越銅像除幕

『廣報』軍神大越兼吉中佐銅像除幕式は去る十日午後一時より建設場たる縣社子鍬倉神社西側にて左の如く行はれたと

▲來賓、遺族、其他參列員一同着席▲副會長擧式の辭▲除幕祭儀大越中佐遺子貢氏除幕▲會計主任工事經過報告『山崎清三』▲會長式辭祭文、演說『宇垣大將外』▲大越中佐遺族挨拶▲銅像建設功勞者工事受負人に謝狀贈呈『請負岡本良平、彫刻赤堀信平』▲大越中佐遺族親戚拜禮▲來賓拜禮▲會長、副會長、役員一同拜禮▲副會長閉式の辭

當日は軍事參議官大將宇垣一成氏、牧野縣聯隊區司令官等の臨席あり供物として奥元帥『大榊一對』南部中將『當時の旅團長』併、宇垣大將其他。

平署内消防檢閲

來る二十日例に依りて平警察署管下消防組員檢閲が施行される、今回は猪狩新署長就任初頭の事で平組では觀櫻をなす豫定であるとの定めし盛會であらう。

出たは咲いたは櫻花と競ふて

平のものいふ花

花見を控えて平藝妓新妓が『半玉』『福島より』◆竹の出たは〳〵咲いたり〳〵衆家からイロ子◆眞佐の家から議選擧以後の分を紹介すれらは政吉◆例の谷口での初ば……子は仲家へ行つて福助と更

◆三好家から芳子『水戸生れ』◆久本からは梅香と稱して東京下り◆橘家からは千代助一寸東京行で中歸り同じく同家から若千代と名乘る、湯本は新蔦で高子と稱した妓である◆開花からは駒吉は前任地は四ッ倉◆湖月に梅幸茨城の古河より◆福清に玉香◆品澤に小静東京府八王寺より◆甲子に德次とあらための元橘家で千代助◆谷口よりは例の姥櫻秀勇姐さん◆玉川からは政榮白河よりの轉任、親元は平とある◆湖月より藤丸◆仲家から勘平◆吉野家から小柳『港より』全じく千松

めどござい。

次はこの平の花をよそに去つたは◆三島家の金子湯本へ行つて榮◆竹の家の林子も見えぬ樣◆又山形家の福千代ともに行先は東京との事◆三好家では小萩、千太郎なんても見えぬ樣だ◆林家の小六、光若は八幡森の別莊住ひとは不運な事である……例の眞佐の家のトミ子は四ッ倉に波の音を聞いて御目出度を待つて居り竹の家の磯壽はこれもよせては返す磯濱で御目出度で母となる處、あの兒はやみからやみへ……とあつて平戀しく四月一日から歸り咲きも花と競ふ事となん◆右の外おくればせながら三島家よりは千成と名乘る佐保姫的な妓が現はれた前任地は梅幸と同じく古河であり芳紀正に二十才

◆綻いて米京より京子◆榮家よりかず子◆一寸落したが福清から秀奴◆それはそれとして久本のあたりと仲家の小猫は半玉生活も來月末までとかさぞ待ち遠いでせうテ

祝平新報之發展

好間村 古河炭礦株式會社 好間礦業所
好間小學校長 渡邊清
好間村 小田炭礦株式會社 社長 萩原申八
内郷村不動澤炭礦 組長 花塚勝次
組長 石橋金太郎
組長 大友政夫
組長 田所橘造
内郷村不動澤炭礦 井坂飯塲
内郷村不動澤 坂田順治
内郷村 區長 大越卯之助
内郷村綴羅前 産婆 川島トミ
内郷村内町 區長 宮本米太郎
内郷村 材木商 佐藤三平
衆議院議員 湯本町 比佐昌平
湯本町惣善寺住職 森文雄
磐崎村小野田炭礦 組長 渡邊豊介
泉村 松井清水商店
泉村役場 助役 中村立躬
收入役 田子福松
書記 志賀晴吾郎
植田町長 佐川龜太郎
植田町 常磐工業株式會社 電話六四番
植田町 滑川英太郎
植田消防組頭 坂本龜太郎
植田郵便局長 馬上守一
植田町 磐城無盡會社
植田町 鳳城炭礦株式會社 喜久田礦業所
植田町 藤田淺之助
小名濱町 藝妓置屋 新米
小名濱町 長瀬金右衛門
小名濱信用組合長
小名濱町 質商 堀越善六
小名濱町 第二區小學校長協議會
小名濱漁業組合長 立花雄七
小名濱町 技藝 水野女學校
小名濱町 久保田醫院
小名濱町會議員 堀越新平
小名濱町 飯塚榮一郎
小名濱町登記所 所長 佐々木善作
小名濱町町會議員 藤社太一
小名濱町 鈴木齒科醫院
小名濱町 町長 收入役 高木榮 助役 樋口速保
四ッ倉電氣株式會社 社長 新妻盛
磐崎村小野田炭礦 組長 鈴木辰之助
磐城水産工業株式會社 社長 小野晋平
小名濱町 白井三郎
材木商 植田町 秋山市造 秋山製材部

觀櫻歡迎 平町
平藝妓屋組合
東部電力株式會社 平營業所
ヤマフル醸造元 鹽屋 山崎合名會社 電話 營業部一〇番 醸造部二七番
平町式丁目 大村屋旅館 大村一郎 電話百七十五番
平町 磐城建物株式會社 電話五一八番
平町式丁目谷口通り 好間、平間 三井自動車部 電話呼出一八番
七十七銀行平支店長 小原長英
日本火災保險會社 平代理店主 中野甲藏
平町二丁目 三井履物店 電話一五六番
平町南町 御料理 玉よし 電話四二六番
平町三丁目角 大黑屋小賣部 電話壹壹六番
平町驛前 旅館 酒井清 住吉屋支店 電話一四九番
平町四丁目 荒物商 伊勢屋 電話四五番
平町二丁目 海産乾物 北海屋 電話八〇九番
平町二丁目裏通 小松崎洗張店 電話七七〇番
平町二丁目 坂田金物店 電話一二八番
新築移轉場所 平町仲田町舊診療所裏通り 耳鼻咽喉科專門 合津醫院 電話五五九番
平町二丁目 内外米雜穀肥料商委托賣買 花澤久一郎支店 電話七三〇番
平料理屋組合
平新田町 御料理 青柳 電話二一〇番
平新田町 やぶそば 電話百四壹番
平町二丁目 荒物商 大一屋 電話一三番
御菓子の勉强は！ 平町二丁目 永野キャンデーストーアー 電話七五五番